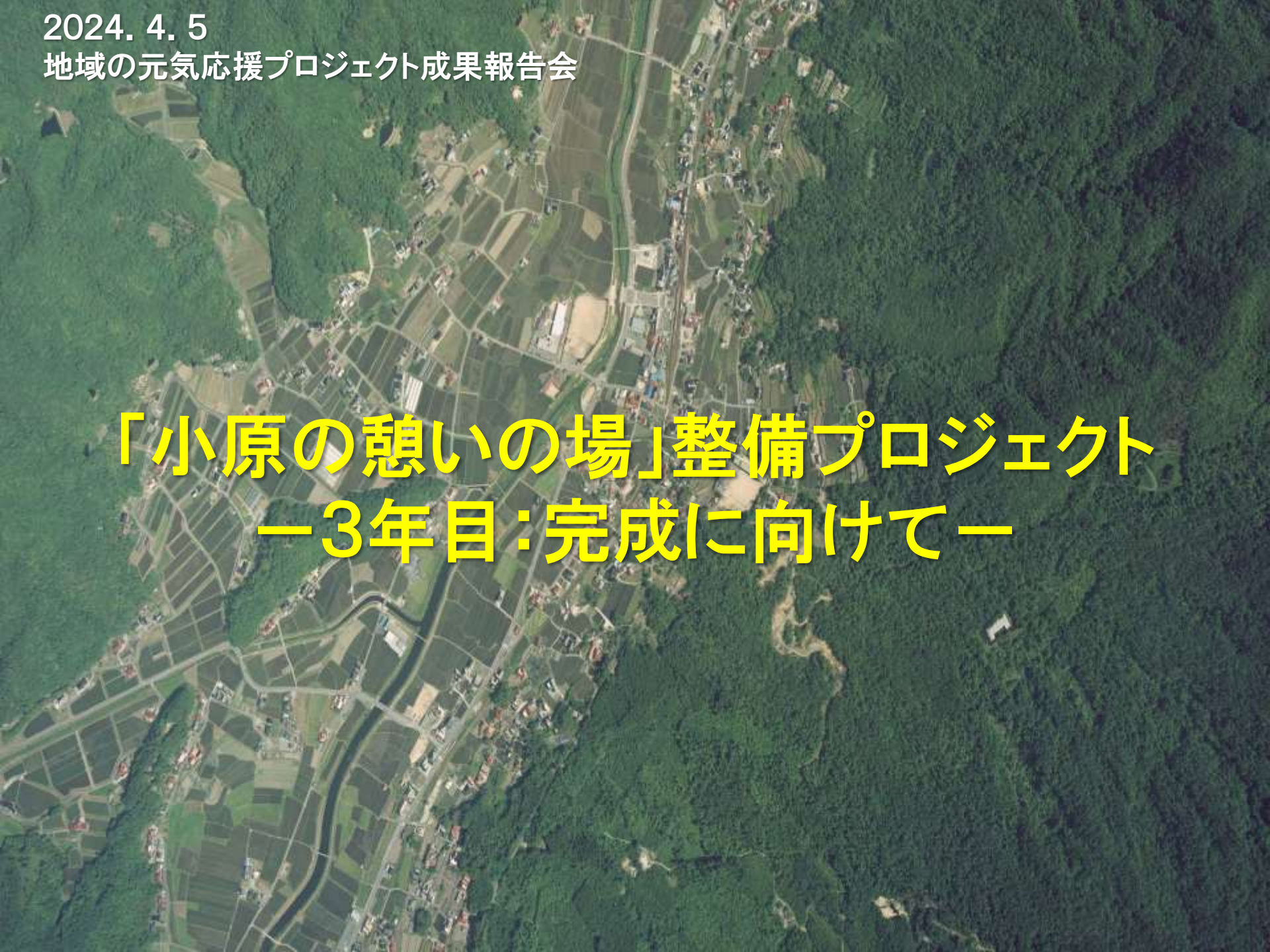
2024. 4. 5
地域の元気応援プロジェクト成果報告会



「小原の憩いの場」整備プロジェクト
ー3年目：完成に向けてー

事業の実施体制

地域

- NPO法人ぷらっとほーむ小原
（代表：明木一悦）

学生

- 先進理工系科学研究科 都市・建築計画学研究室 学生有志グループ（代表：城本大暉）

教員

- 田村将太（先進理工系科学研究科 助教）

対象地（JR吉田口駅）

Google Map

対象地（JR吉田口駅）

Google Map

対象地（JR吉田口駅）

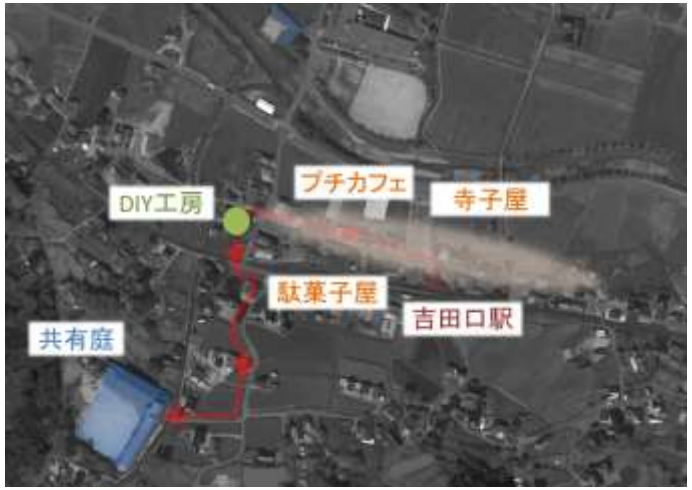
Google Street View

経緯

平成30年度「広島大学地域連携推進事業」

経緯

平成30年度「広島大学地域連携推進事業」



「憩いの場」の必要性

プロジェクトの背景

- 現在、中山間地域は、人口減少・高齢化等が進むと同時に、人々が日常的に集う場が減少。
- 地域活力の低下や、関係人口の減少など。
- 小原地域でも、地域の人々や、地域外から来訪する人々が気軽に集うことのできる「憩いの場」が求められている。

現地視察(2021年度)

ぷらっとほーむ小原拠点にてレクチャー

デザイン案の検討（2021年度）

小屋のデザイン案発表会（2021年度）

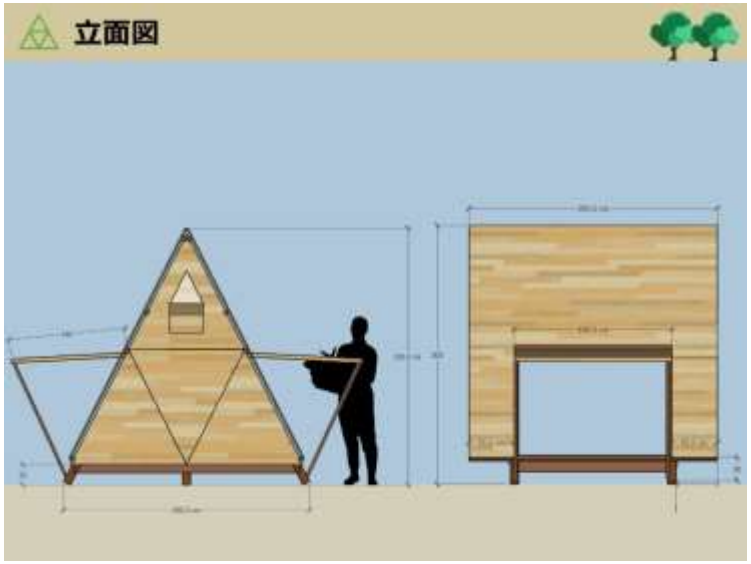
模型を囲んだ議論

デザイン案

小原の憩いの場づくり
「小屋のデザインプロジェクト」
A KIT

デッキ（オプション）
仮的な物置き場
コミュニティスペース

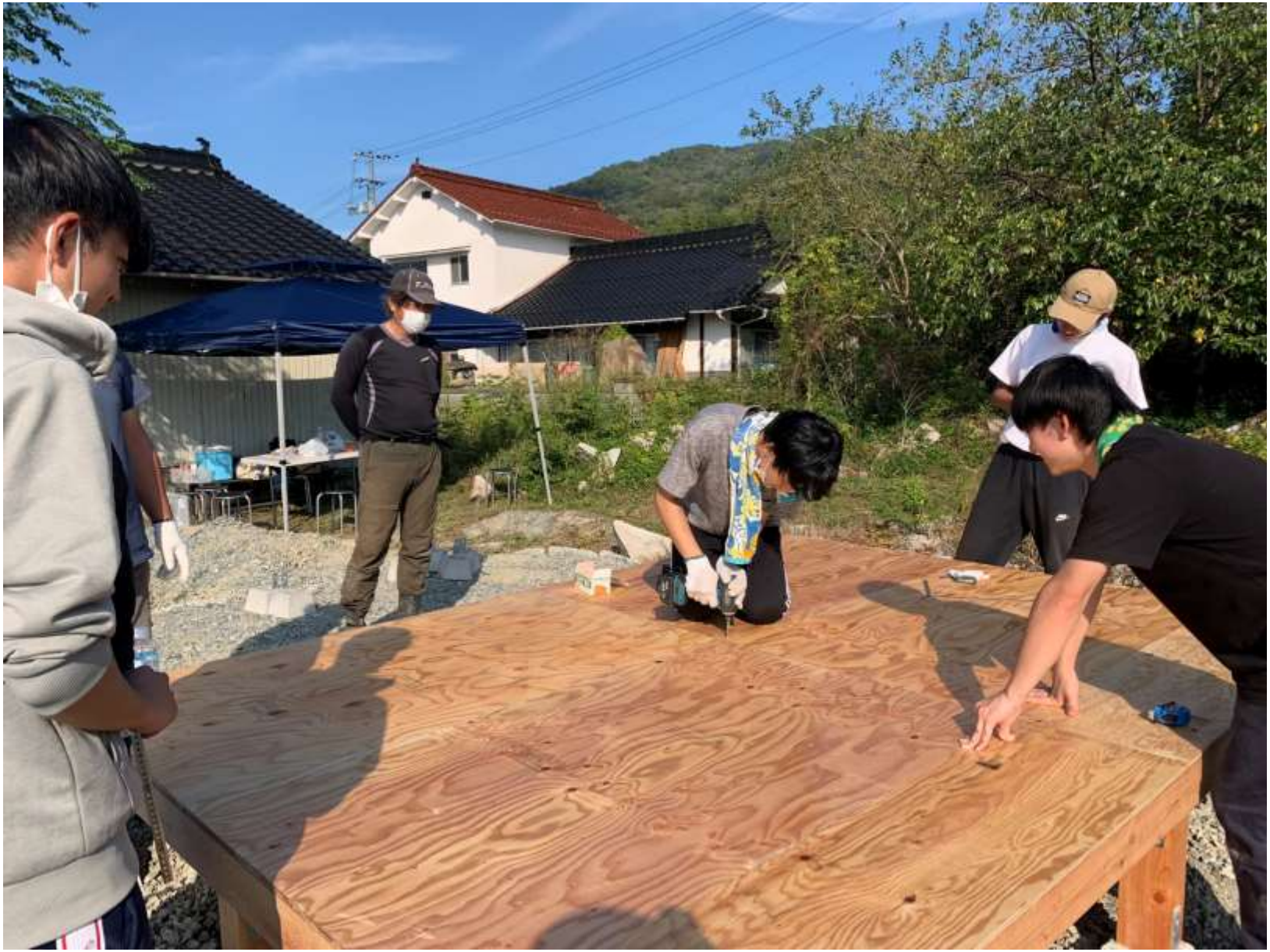
構造
トラス構造
基礎
デッキ


立面図

材料加工（2022年度）

現場での施工（2022年度）

現場での施工（2022年度）



壁と屋根の作成（2022年度）

壁と屋根の取付け（2022年度）

屋根の塗装（2023年度）

屋根の塗装（2023年度）

屋根の塗装（2023年度）

壁の取付（2023年度）

扉の取付（2023年度）

デッキの作成（2023年度）

ピザ窯の作成(2023年度)

ピザ窯の作成（2023年度）

一心祭り(2023年度)

オープニング（2023年10月）

オープニング（2023年10月）

オープニング（2023年10月）

オープニング（2023年10月）

芸備線駅近くに憩いの小屋

吉田口駅 地元NPOプロジェクトで遊休地再生

JR芸備線の吉田口駅（安芸高田市甲田町下小原）そばに手作りの小屋が建った。地元住民でつくるNPO法人ぷらっとほーむ小原の「小屋プロジェクト」で、遊休地を交流や憩いの場に再生する試み。かつて商店が並んだ駅前は閑散とし、芸備線の存廃議論も浮上する中、小さな拠点から関係人口の拡大を目指す。（胡子洋）

芸備線吉田口駅そばで小屋づくりの最終工程に励むメンバーや学生。今後、交流拠点として活用する

線路を挟んだ駅東側の約50平方㍍に、シャープな三角形の木製小屋と、ピザ窯がある。広島大の助成金を活用して2021年秋から設計し、翌年秋に着工。地元工務店も協力した。新型コロナウイルス禍もあったため、今月7日にようやくデッキの最終工程が完了。関係者でピザ窯に火入れをして完成を祝った。

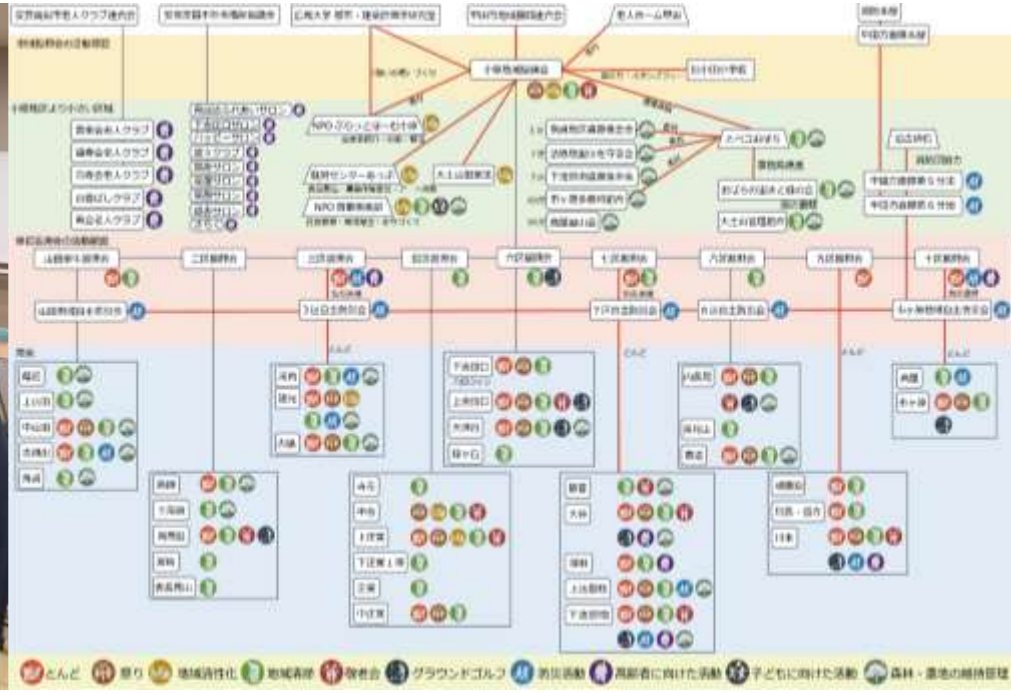
「誰もが憩えるオープンスペース。遊休地を生かす提案でもある」と代表の明木一悦さん(65)。同法人は吉田口駅舎の指定管理とともに小原地域の空き家の調査や紹介を担う。月1回、移住希望者と住民がバーベキューで交流しており、今後は小屋を拠点に企画する。

広島大大学院生も参画 地域の交流拠点に

小屋づくりには広島大大学院先進理工系科学研究科の研究室に所属する学生約10人も参画。リーダーの城本大暉さん(23)はサークル活動でも東広島市志和町の古民家再生に取り組み、「地域の人たちと関わるのは充実感がある。芸備線沿線の活力が高まれば」と願う。

駅周辺にはかつて日用品や飲食店、病院、映画館もあり、交通の要衝としてにぎわった。メンバーで地区出身の会社員中田善方さん(62)＝尾道市＝は「全てが事足りる自慢の地域でした」と懐かしむ。高齢化や人口減少を受け止めつつ、「人が集う場ができた意味は大きい」と話す。

「芸備線の乗客も気軽に使ってほしい」と明木さん。利用希望はメールで受け付ける。npopfobara@gmail.com

中国新聞（2023年10月17日）

2023年度修士論文